<虫たちの冬の家>

桑原紀子

12月が近づいたので、庭の木々の剪定をしまし た。

大きく伐った枝は束ね、細い枝はチップにして庭に敷

き詰めます。そ うすると、少しず つ土になってい くのです。

日向ぼっこを しながら息子と その作業をして いると、虫たち の作った不思議 な造形物がいくつ か見つかりました。 あまりにも小さか ったり、上手にカ ムフラージュして いたりで、立ち木 の枝にある時は 気がつかなかった

のです。



キボシトックリバチの巣



ミノムシの巣

思いがけない場所についている小さな泥や蓑の巣、 陶磁器のつぼのような繭や池の塊は、子の巣の頃の 宝物のように、心をわくわくさせてくれます。

この日見つけた妖精の隠れ家のような宝物を紹介 します。

<金木犀の枝についていた泥の家>

泥と唾液をこねて、小さなトックリのようなものを作 るトックリバチというのがいるのですが、これは数個 のトックリを作り、その上を又泥で塗り固めています。 巣の形からキボシトックリバチの作です。トックリの部 屋に、麻酔をした青虫を運び込み、各部屋に卵を1 個ずつ産み付け泥でふたをします。卵から孵った幼 虫は青虫を餌に育ち、穴を開けて飛び立ちます。写 真のはひとつ脱出孔が空いていますが、ほかはまだ 泥でふさがれています。まるで左官屋さんの仕事ぶ りです。

<もみじの枝の小さなつぼ>

以前は冬になると柿の木でよく見つけたのに、珍し くなってしまいました。刺されると痛いイラガの幼虫 が作った 1、3cm 程の小さい繭です。とても固く、白地



イラガの繭



カマキリの卵

ます。

に焦げ茶の 縞模様が、 焼き物のつ ぼか小鳥の 卵のようです。 幼虫はこの 中で冬を越し、 来年5月頃 羽化します。

繭の縞模様は ひとつずつ異 なっていて、そ の秘密は「イラ ガのマユのな ぞ」(偕成社)と いう一冊の本

にまでなってい

<もみじにぶら下がるミノムシ>

ミノムシも久しぶりでした。これはオオミノガの幼虫 の冬の巣です。枝にしっかり固定しています。ミノム シが少なくなったと感じていたら、なんと西日本の方 では、絶滅危惧種に指定されているそうで、びっくり しました。1995年頃から、それまで日本にいなかっ たオオミノガヤドリバエという寄生バエが日本に侵入 し、集中的に寄生して、ほとんど全滅とのこと。どこに でもいたミノムシにも大変な事が起きているようで す。

<金木犀の泡の巣>

オオカマキリの泡のようなスポンジ状の巣で、沢山 の卵を冬の寒さから守ります。ある絵本によると、こ こから162匹の赤ちゃんが生まれたそうです。

虫たちはそれぞれ工夫をこらして機能的な家を作 り、きびしい冬を生き延びます。住宅地の小さな庭の 中にも、こんな楽しい職人技がそっと隠れているので す。